

グループ名

農業環境部

(栃木県立栃木農業高等学校)

いでよ！！「土の中のドラゴン」～ミミズは最強の土壤改良マシーン～

【活動グループの紹介】

栃木県立栃木農業高等学校（以下「栃木農業高校」と言います。）は、創立119年の歴史を持つ、栃木県内唯一の農業単科高校です。

農業環境部では、有機農法を活用した農作物の栽培に取り組んでいます。その中でも、みどり戦略学生チャレンジの取組テーマである「ミミズを活用した肥料づくり」は、先輩達から受け継いだもので、日々、ミミズの生態を勉強をしながら研究に取り組んでいます。

また、他にも地域の方々とも連携をしながら、ニホンミツバチの飼育や、栃木農業高校が位置している栃木市平井町の名産であるゆずを活用した商品開発等、様々なテーマでの活動を行っています。

[トップページ - 栃木県立栃木農業高等学校 ←学校の詳細はこちらから！](#)

【取組の紹介】

「ミミズを活用した肥料づくり」では、ミミズ堆肥の作成とミミズ自体の生態調査・育成の2つを大きな柱としています。

具体的には、次の4つに取り組んでいます。

- ①様々な環境の圃場におけるミミズの生態調査
- ②どこでも手軽にミミズ堆肥を作成できるミミズコンポストの製作
- ③作成したミミズ堆肥の土壤分析
- ④ミミズ堆肥を活用した作物の栽培

また、昨年度まではシマミミズを研究していましたが、有機物をたくさん投入しないと生きられないことや、フンを抽出することが難しいといった研究上の課題があったため、対象をフトミミズに切り替えて研究を継続しています。どのように農業に活かしていくのか、フトミミズの生態を勉強しながら、さらなる研究を進めていきます。



Q1 取組のきっかけは何ですか？



当時の先輩達が作物の生育を研究していく中でミミズに興味を持ち、「ミミズは本当に農業に良い効果があるのか、科学的に実証できないか」と考えて、3年前から研究を始めたことがきっかけになります。

農業環境部の
みなさんに聞きました！



Q3 他に取り組んでいることはありますか？

ぼかし肥料、光合成細菌、天恵緑汁など有機農法を活用した環境にやさしい栽培に取り組んでいます。

また、農業環境部の活動の1つとして、飼育が難しい二ホンミツバチの養蜂も取り組んでいます。



Q2 大変だったことはありますか？

ミミズ自体の飼育が課題です。

ミミズ堆肥を増やすためにミミズの数を増やすことにも取り組んでいるところですが、暑さに弱いことや水管理が難しいことから、試行錯誤しながら飼育しています。



// 楽しみながら
環境にやさしい農業に
挑戦中！

Q4 今後の目標はありますか？

去年までシマミミズでの研究を行っていましたが、今年からはフトミミズで研究を継続しています。

もっとフトミミズのことを勉強して、どのように農業に活かせるのか、より細かく研究していきたいです！



取材を終えて

9月中旬、栃木農業高校にお邪魔して、みどり戦略学生チャレンジにエントリーいただいた「農業環境部」の皆さんに、みどり戦略学生チャレンジに向けた取組の進捗状況や、その他に取り組んでいることについて取材をさせていただきました。

取材時点で8名がグループに加入していましたが、当日は部活動見学の生徒含む4名の生徒さんにお話を伺うことができました。

リーダーの桐生さんのご説明を受けながら、ミミズ堆肥の研究を行う圃場だけでなく、様々な有機農法やニホンミツバチの巣箱など、校内を案内していただきました。

現在はセイヨウミツバチの養蜂が主流で、環境、飼育の点から難しいことから、ニホンミツバチを飼育する養蜂家は1%に満たないそうです。しかし、セイヨウミツバチが増えすぎると生態系への影響が指摘されているため、「自分たちがニホンミツバチの養蜂を広めることで、ニホンミツバチを飼育する人が増えてほしい」という素晴らしい志を持って活動されていることを伺いました。

今回の取材を通して、皆さんの活動に対する熱意や環境にやさしい農業に対する関心の高さをひしひしと感じました。

農業環境部が取り組む、ミミズ堆肥などの有機農法やニホンミツバチの養蜂がもっと広まっていくことを願っています。取材にご協力いただきありがとうございました！

